

イセアンロ アナシ、イランカラプテ。

みなさん、こんにちは。

テタ アシ ク アン ルウェ ネ、
ク アン アッパ ノ ケ ルウェ ネ ワ、
ク アン アイヌ イタク アプカスイ
アン ルウェ ネ アルキ ネ。

今日は、私の血筋のこと、
そしてアイヌ語を学ぶなかで気づいたこと
についてお話しします。

ポン ポシリ アン シサム ヘ ヘシ
ホッカイドー エシ アルキ ネ タ、
アイヌ アシ トンデンヘイ アシ、
アプカスイ ネ ワ アプカ ソモ ネ。

ポン・ポシリ、すなわち現在北海道と呼ばれる
この土地のことを語るとき、アイヌと屯田兵の
どちらも欠かすことはできません。

ク アン、アッパ アン オッカイポ ワン、
イブリ オル ワ トヨウラチョウ オル ワ
アイヌ オッカイポ ルイネ ネ、
アッパ アプ ワ、カガワ ケン オカル
トンデンヘイ オッカイポ ネ。

私の父方の祖母は胆振地方の豊浦町に暮らし
たアイヌの家系で、父方の祖父は香川県から渡
ってきた屯田兵の家系です。

ク アン アイヌ ネ ワ トンデンヘイ アプ
ネ。

私は、アイヌであると同時に、屯田兵の系譜を
継ぐ存在でもあります。

ク アン ニ アン ネ、
アイヌ ワ シサム アン オプ ウェン
アン アシ オカイブ ネ アルキ ネ。

私は、歴史の中で、アイヌと和人が何度も争っ
てきたことを知っています。

ク アン エシ ネ、
タタ ルウェ ネ ワ ウェン ネ アルキ
ネ。

その中には、多くの良くない出来事があったと
私は思います。

カムイ ク ウェン ネ タ、
チワン ルウェ ネ アルキ ネ。

カムイが見たであろう、悲しき出来事でした。

アイヌ ルウェ ネ、カムイ ク アルキ、
アプカスイ アン アルキネ。

アイヌの人々は、自然を「カムイ」として敬い、
感謝してきました。

ポンモシリ ルウェ ネ、ユカラ カムイ ク、
ベツ カムイ ク、レプン カムイ ク、カムイ
アシ ネ アン、アプカスイ アン アルキ ネ。

ポンモシリの各地では、森や川や海も、すべて
自然の恵みとして暮らしてきたのです。

トンデンヘイ ク、メイジ ク ウェン、
ホッカイド イヤイク ウェン ユク ネ、
アシ ク ウェン エスイ アン、アペチ アルキ
ネ。

一方で屯田兵は、明治の時代に北海道と呼ばれ
る未知の地に入り、厳しい気候に直面しなが
ら、未来の実りを夢見て懸命に働きました。

ルイネ ク アン アッパ アプ ネ、アプカスイ
アン、エシ アルキ ネ チセ ルウエ ネ。

異なるルーツを持つ祖父母は、互いに助け合
い、力を合わせて家庭を築きました。

アッパ ク アムク ネ、ネ ワ ク ノ ウヤイ
アルキ ネ。

そして父が生まれ、今の私の家族があります。

ク アン アイヌ ネ ワ トンデンヘイ アプ
ネ。

だから、アイヌと屯田兵の両方の歴史が私の中
にあります。

ク アン ネ ルウエ ネ。

それは誇りです。

ク アン、イタク ルウエ ネ トウレシ ルウエ
ネ アルキ ネ。

私は過去から目を逸らすことなく、共に生き続
けることを考えたいと思います。

アイヌ イタク、ユネスコ エシ アルキ ルウエ
ネ、ニホン ウェン ルウエ イタク ネ、アシ ネ
ルウエ イタク ネ。

アイヌ語は、ユネスコにより日本で使われる八
つの消滅危機言語の一つとして指定され、その
中でも最も危険な言語とされています

イタク ルウエ ルイネ、 ク アン アルキ ネ
エシ ネ。

言語が消えるということは、当事者にとって最
大の悲劇です。

イタク ルウエ ネ アルキ ルウエ ネ、
カムイ ルウエ ルイネ、トウルシ ルウエ ネ、
ワシリ ルウエ ネ アルキ ネ。

言語には、その背景となる自然観、宗教観、
人生観などが表れています。

エトツケ アス、アペシ アン ルウエ ネ
アルキ ネ。

それ故に、他の言語には容易に翻訳することが
できないこともあります。

エトツケ ク アン、イタク ルウエ ネ アルキ
ネ、ワタク ルウエ ネ シリプ ネ。

その意味で、一つの言語の喪失は人類にとって
の損失であるとも言えます。

ク アン アイヌ イタク ウェン ネ、エシ
チイネ イタク ネ。

私はアイヌ語を学び始めたばかりですが、とて
も美しい言葉だと感じます。

「イランカラプテ」 エシ、イタク アン ウク
ネ、アシ ケシ アン ネ。

「イランカラプテ」は、日常でよく用いられる
あいさつの言葉です。

アヌ ネ、イソラプ アン ネ、エイラム アン
ウシケ アプ カシ アン ネ。

それは、本来「あなたの心に触れさせてくださ
い」という意味を持っています。

アエトウシ ネ、ラム シネ ネ、ヘネ ウレシカ
ネ。

本当に、心が温かいですね、なんとすばらしい
ことか。

「イラマンテ」 エシ、ク ウプ ソク カラ
アン ネ。

「イラマンテ」は狩猟をすることを意味しま
す。

トウレシ アン ルウエ ネ、カネシ アシ
トウレシ ネ アルキ ネ。

単なる狩りではなく、精神的・儀礼的な行為で
す。

イラマンテ ワ、カムイ ク イコロ アルキ
ネ、アシ アルキ ネ ルウエ ネ。

イラマンテは、神に触れる行為であり、精神的
な意味を持っています。

トウレシ アン ルウエ ネ、カムイ ク
アシ アルキ ネ、チセ ノ アルキ ネ
ルウエ ネ。

それは、神聖な行為であり、暮らしの営みでも
あります。

「サヨムカ」アシ「カムイ ヌプル」アン ネ、
メシ アシ タ ノ アン ルウエ ネ、
イシカラ アプ カシカ アシ、カムイ ノ アン
ルウエ ネ。

「サヨムカ」「カムイ ヌプル」はどちらも食
事前に唱える言葉で、恵みに感謝するといった
ニュアンスを含んでいます。

アン ネ、「イタダキマス」 エシ アルキ ネ、
ク アン イタク ク ウエン エシ アン ウエン
アルキ ネ。

これらは日本語の「いただきます」の精神にも
親和性がある、興味深いです。

ク アン イタク ク ウエン アプカスイ アン
ネ、ク アン アプカスイ アン ネ アルキ ネ。

この言葉と文化を絶やさぬよう、私は学び続け
ます。学び続けようと思います。

ク アン、エトツケ アン ネ。

私は次のことに気づきました。

ニホン イタク ク ウェン ネ、ニホン ネ
アルキ ネ。ク アン ニホン イタク ク ウェン
ネ アルキ ネ アプカスイ アン ネ。

日本語を話し、日本語で考える私は、日本語と
日本文化に支えられながら、アイヌの言葉と文
化を学んでいます。

ク アン ナ ニ ペッ イタク ト ルイネ ト
ルウェ ト アルキ ネ、アン ネ。

それはすなわち、私の中に、二つの言葉と文化
が互いに補い合い、共に存在しているというこ
とです。

ク アン シルピリカ ネ ワ、 ア コル
ルスイ ネ タ、
ニホン ト アイヌ アン ネ、 カ ソモ
ネ ワ アルキ ルウェ ネ。

それは素晴らしいものでありそれを思うと、日
本とアイヌの間に限られるものではないはず
です。

アシリ モシリ アナム ウタラ ト イタク ネ、
アシリ モシリ アナム ルウェ ト ルウェ ネ、
トウレシ ルウェ ネ、
ニ ルウェ ネ アルキ ネ。

この世界に生きる全ての心と文化が、互いに理
解し合い、長く共にあることを願っています。